

安全は事故から学ぶことから進歩する！！

7月23日、中国浙江省温州市内の鉄道「杭深線」の永嘉－温州南駅間で停車中の列車に後からきた列車が追突し、脱線転覆、追突した列車の2両が高架下に転落、1両が宙吊りになるという大事故が起きました。

この事故で35人もの尊い人命が失われ、192人もの負傷者がでたと報道されています。(人数は中国鉄道省発表)

翌日24日、中国鉄道省は、この追突・脱線事故の原因について「落雷による設備故障」との見解を早々と表明し、あろう事か事故車両を現場近くに解体して埋めるといふ事故隠しとも言える行為が行われたと報道されています。そして事故発生から1日半で運転を再開しました。

お国柄と言うのでしょうか？事故原因究明に必要なはずの事故車両を事故現場近くに解体して埋め、事故の検証も行われた様子もない中、運転を再開したことは日本では絶対に考えられないことです。

中国当局の対応は「安全は事故から学ぶことにより進歩する」という大前提を無視し、再発防止を全く考えていないとしか言えません。

他国の事故でも徹底した検証で安全の礎に！！

この事故に対して、日本の鉄道関係者からは『日本の新幹線なら、たとえATCに異常があっても列車はすぐ止まる』『日本では絶対に起こらない』という声が上がっています。私たち鉄道会社で働く労働者としては、まさにその通りであると思いたいところですが、果たしてそうでしょうか？

1989年、カリフォルニアで起きた地震で高速道路の高架部分が寸断・落下した時、日本の専門家は「日本の高速道路は構造がしっかりしており、同じような崩壊は起きない」と断言していました。しかし、6年後の1995年の阪神大震災で高速道路が横倒・落下しました。また、スリーマイル原発事故、チェルノブイリ原発事故が発生しても、日本の原発専門家は『日本では十分な安全対策を施している。日本では起きない』と言い放って、安全神話をデッチ上げてきた結果が今年の福島原発での大事故・大惨事です。

この度の中国高速鉄道事故に対する中国当局の対応は、私たちから見れば考えられないことばかりで批判の対象になりますが、『日本では絶対に起こらない』と安全神話をデッチ上げ、他国の地震や事故から何ら学ばなかった結果が大惨事につながっていることを私たちは阪神大震災・福島原発事故で体験しました。従って、日本では考えられない事態としても、事故・災害から学び、常に安全を追究し、対策を向上させ続けることが大切です。

私たち鉄道会社で働く労働者として、他国の事故であっても徹底的に原因追究・検証を行って安全の礎にする謙虚な姿勢を持ち、絶対に尊い人命を失うような事故を起こさないために行動していきましょう。